

漢字かな交じり文を書く(10)

締切り 十月二十五日(必着)

あはれ
秋風よ
情あはば傳へてよ
——男ありて
今日の夕餉にひとり
さんまを食らひて
思ひにふけると



奥村憲照先生書

◎書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり文」の三つがあります。

◎「漢字かな交じり文」は、実用書としてはあたり前のことですが、芸術書としては比較的新しい分野で、近代詩文書とか調和体と呼ばれています。団体によっては、新和様とか新書芸という呼称もあります。

◎今月の作品は、漢字とかなの字粒の差が大きく、字間も広めで、ポツポツとした感じが、独特のムードを表現しています。皆さんもそれぞれに工夫してみてください。

◎誰にでも読めて、言葉の感動をストレートに表現できる「漢字かな交じり文」の世界をお楽しみ下さい。

※出典 佐藤春夫 「秋刀魚の歌」(部分)

※落款(氏名)も作品の一部として、作品の最後に書き入れて下さい。(雅印のみ可)

□作品の出し方

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

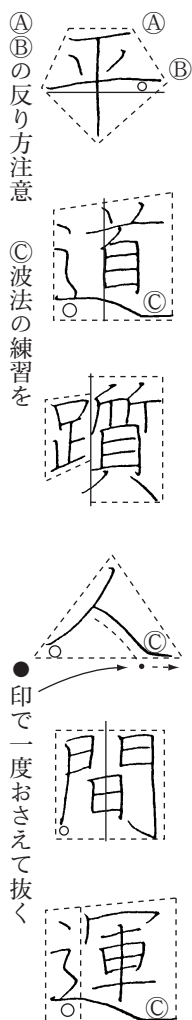
▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

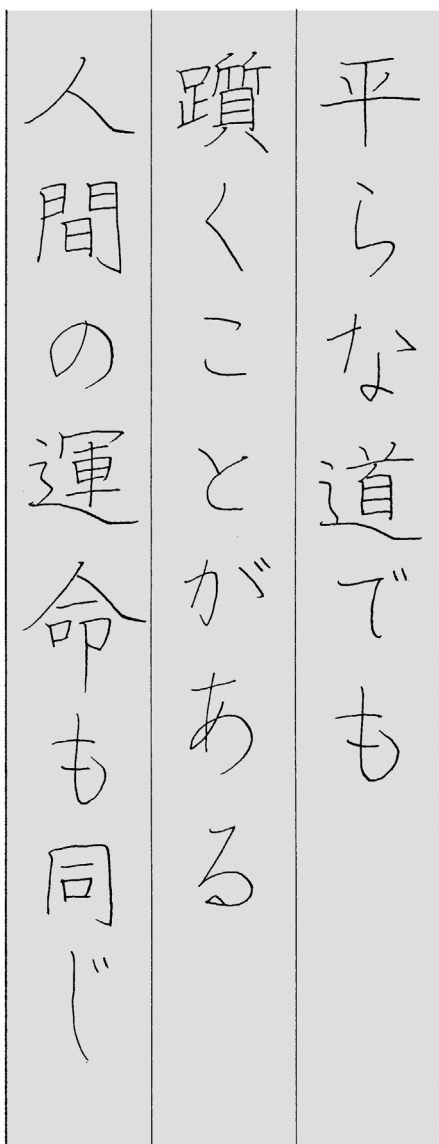
新入から1級まで

〔解説〕

〔解説〕



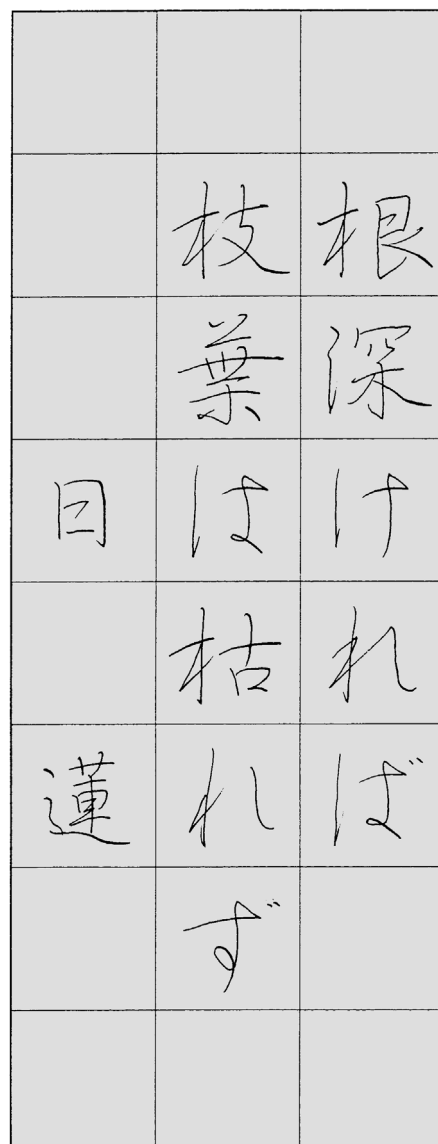
▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。
書く時間より、手本を見る時間を多くすると上達が早い。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

◆11月課題予告（行草または草書）
窮すれば即ち変じ
変ずれば即ち通ず
易 教
▼教範・書範＝行書
▼師範＝楷書

★平らな…（書体＝楷書）
チエーホフ（一八六〇～一九〇四）
ロシアの小説家・劇作家
一見、平らな道に見えても、何でも
ない石やくぼみにつまづいて転ぶこと
があります。順風満帆な人生だと思っ
ていても、やはり誰にでも同様のこと
が待ち受けているのです。チエーホフ
にとって、人生の目的は現在の「つか
のまの幸福」ではなく、「未来の幸福」
に向かって坦々と「働く」ことでした。

◆11月課題予告（楷書）
舟 覆りて
すなわち善く
遊ぶを見る

★根深ければ…（書体＝行書）
日蓮（一三三三～一三六三）
鎌倉時代の僧・日蓮宗の開祖
根が深くしっかりと大地に張ってい
れば、それに支えられる枝葉が枯れる
ことがないように、物事は基礎がしっ
かりしていれば衰退することはありま
せん。日蓮が道善房に送った書簡の中
に、「根が深いときは枝葉は枯れず、源
に水があれば流れは乾かない」とあり
ます。

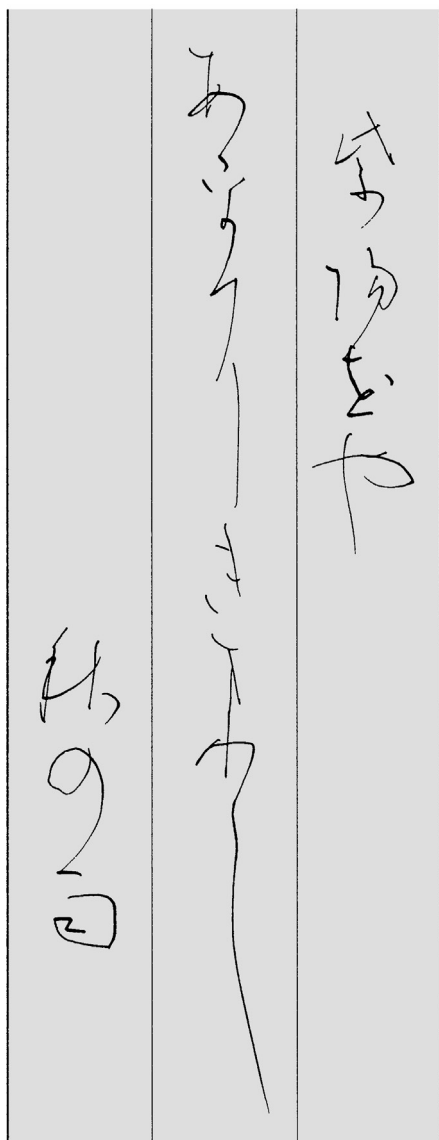
一般部かな課題

締切り 10月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

紫陽花や青にきまりし秋の雨
あずさ あを

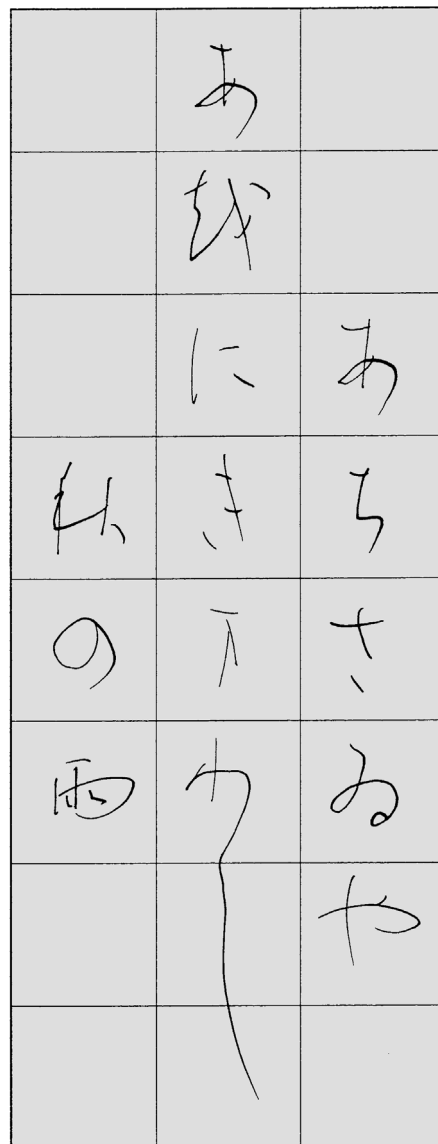


こ だま ち せん 先生書
児 玉 知 泉

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

紫陽花や青にきまりし秋の雨
あずさ あを



こ だま ち せん 先生書
児 玉 知 泉

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆11月課題予告

押されつつ渡るも楽し花の橋

(増田手古奈)

角川携帯かな字典より

利り 万ま 越を 乎を
あ 万 越 乎
あ 万 越 乎
り ま を ち

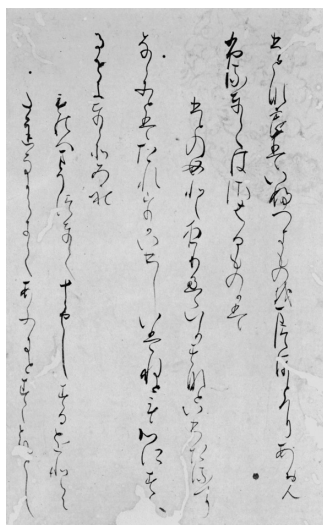
〔句意〕紫陽花に降る秋の雨の句。青っぽくなった雨の色に、作者はそこはかとなく秋の情趣を感じとった。

〔古筆参考〕

紫陽花や青にきまりし秋の雨
あずさ あを
(正岡子規)

〔古筆参考〕

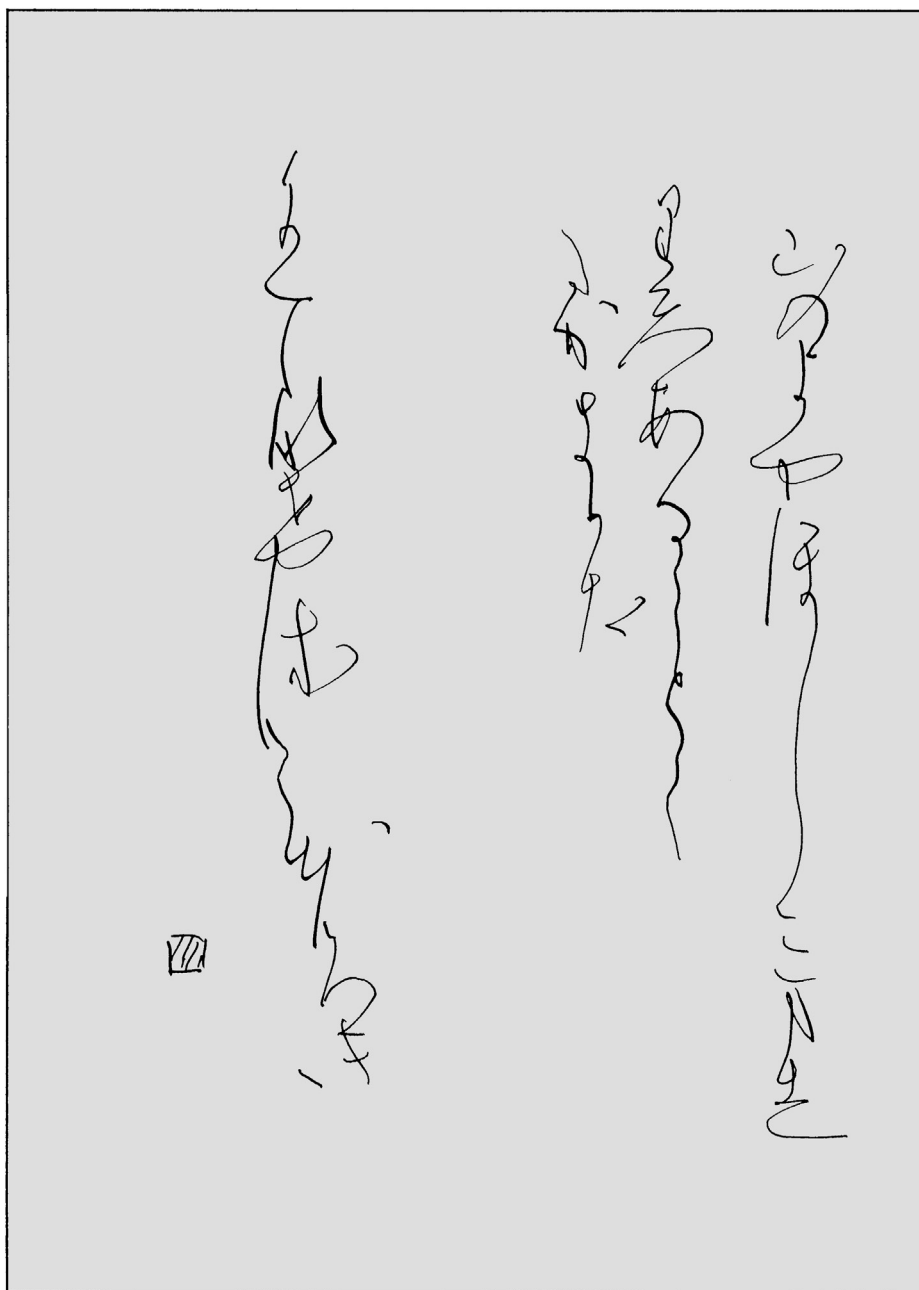
いずみ しき ぶ ぞくしゅうぎれ
和泉式部続集切



悲 那良盤 支 越万徒 耳 免
ひとならばいふべきものをまつほどにあめ
布流東 旦 佐者 母登夜利 盈 可 盤
ふるとではさはるものは
悲 母登夜利 盈 可 盤
ひとのもよりえいかななどいひたるに
所 盤 手 可 悲 盤 毛 心 春 流 耳
なこそとはたれをかいひしいはねども心にす
世 支 東 所 礼
るせきとこそみれ
毛 能 万 徒 東 旦
ものへまうつとてさせじするをそこ
多 遅 可 支 旦
たちながらきてあふぎとすと□とし

締切り 十月二十五日(必着)

築瀬舟香書



山の夜や星にまじりてあるごとく
多岐支那希流本
高き方にて鳴けるこほろぎ

〔歌意〕山の夜、まるで夜空の星々に混じっているみたいに、高い場所でコロギが鳴いているのが聞こえてきます。

〔出典〕名歌即訳 与謝野晶子

〔解説〕



- ①と②、①と③、②と③、②と④、③と④、④と⑤、それぞれ呼応。
- 行の密の部分・密の動きに注意。
- 大きな間大切。
- ・ の方向・○の位置大切(これは余白をしめる効果がある)

和泉式部続集切の中の

「短縮」と「し」

二文字三文字の連綿線を短くして、文字を一字に見せる短縮形は紙面の余白の増大をもたらし、又「し」の効果によって作品に明るさをもたらします。「万志」「希流」「し」などがそれに該当します。

◆11月課題予告

過ぎ去れば昨日の遠し今日もまた夢の話となりぬべきかな

(与謝野晶子)

締切り 10月25日(必着)

近頃、料理に熱中している主人。
食器にも凝り始めたので、瀬戸物
祭りに出掛けました。ほしかった
大皿や小鉢を揃え、ちよっとした
料亭気分です。近々お酒の席を
用意しますので、お楽しみに。

近頃、料理に熱中している主人。
食器にも凝り始めたので、瀬戸物
祭りに出掛けました。ほしかった
大皿や小鉢を揃え、ちよっとした
料亭気分です。近々お酒の席を
用意しますので、お楽しみに。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん 岡 嶋 桂 川 書

美しい景色で知られるスイスは、
ちようと九州ぐらいの広さです。

愛媛県松山市 氏 名

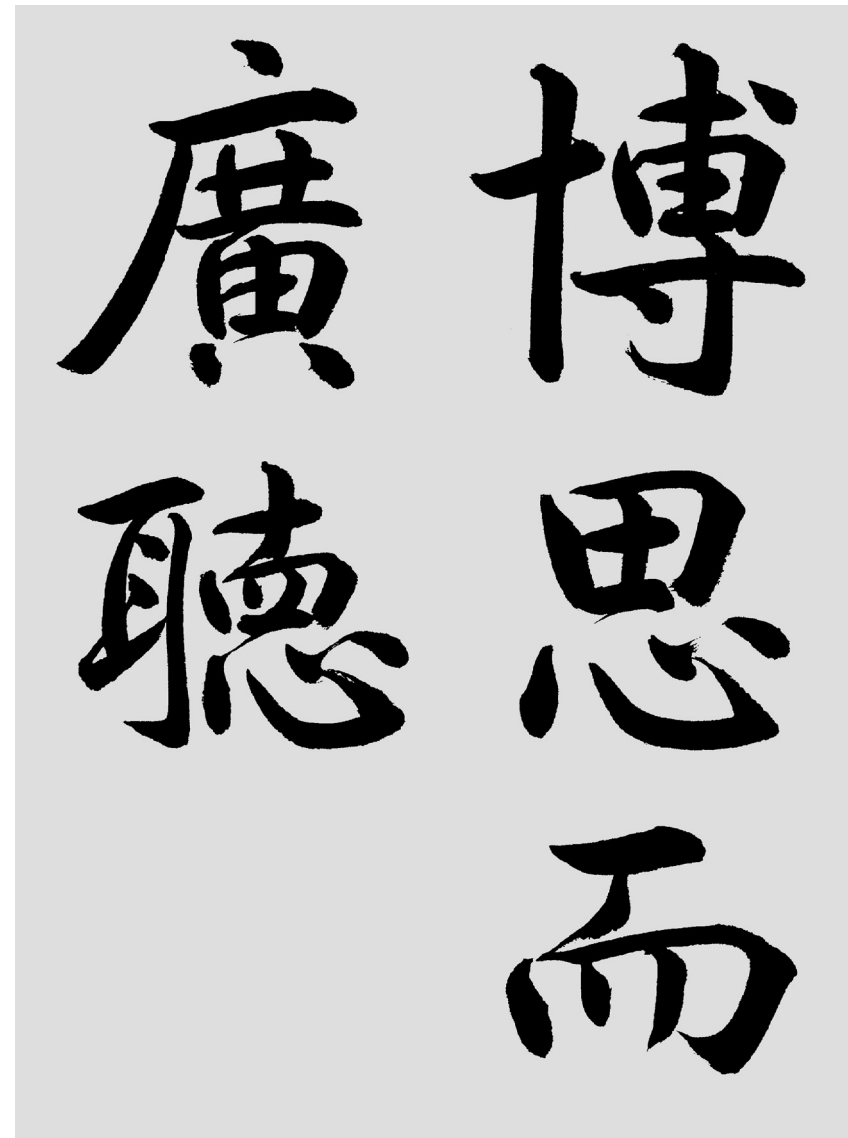
※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 10月25日（必着）

新入から1級まで（行書）

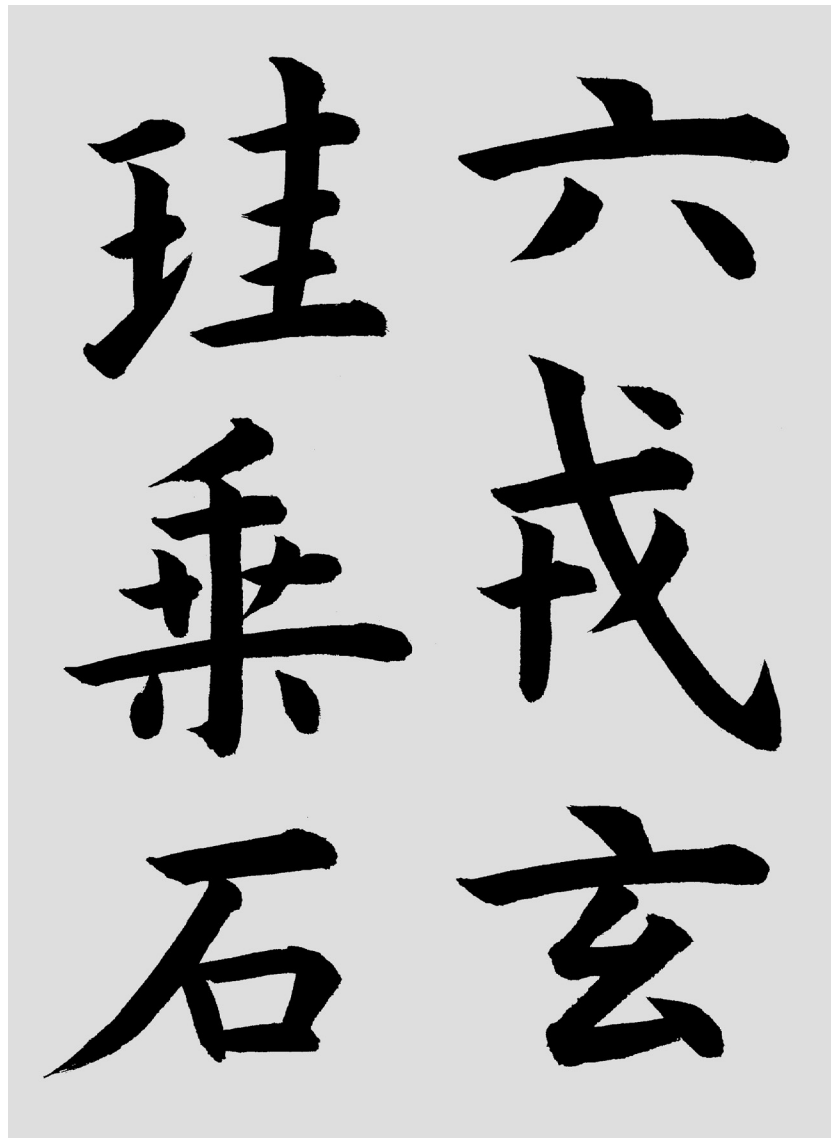
澤^{さわ}
静雨^{せいう}書



〔読み〕博思にして広聴。
〔大意〕広く物事を聞き、ひろく考える。

準初段から師範まで

奥^{おく}村^{むら}暢^{のぶ}之^{ゆき}臨



〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）
〔読み〕六^{りく}戎^{じゅう}を（^す摠ぶ。）玄^{げん}珪^{けい}乗^{じょう}石^{せき}の



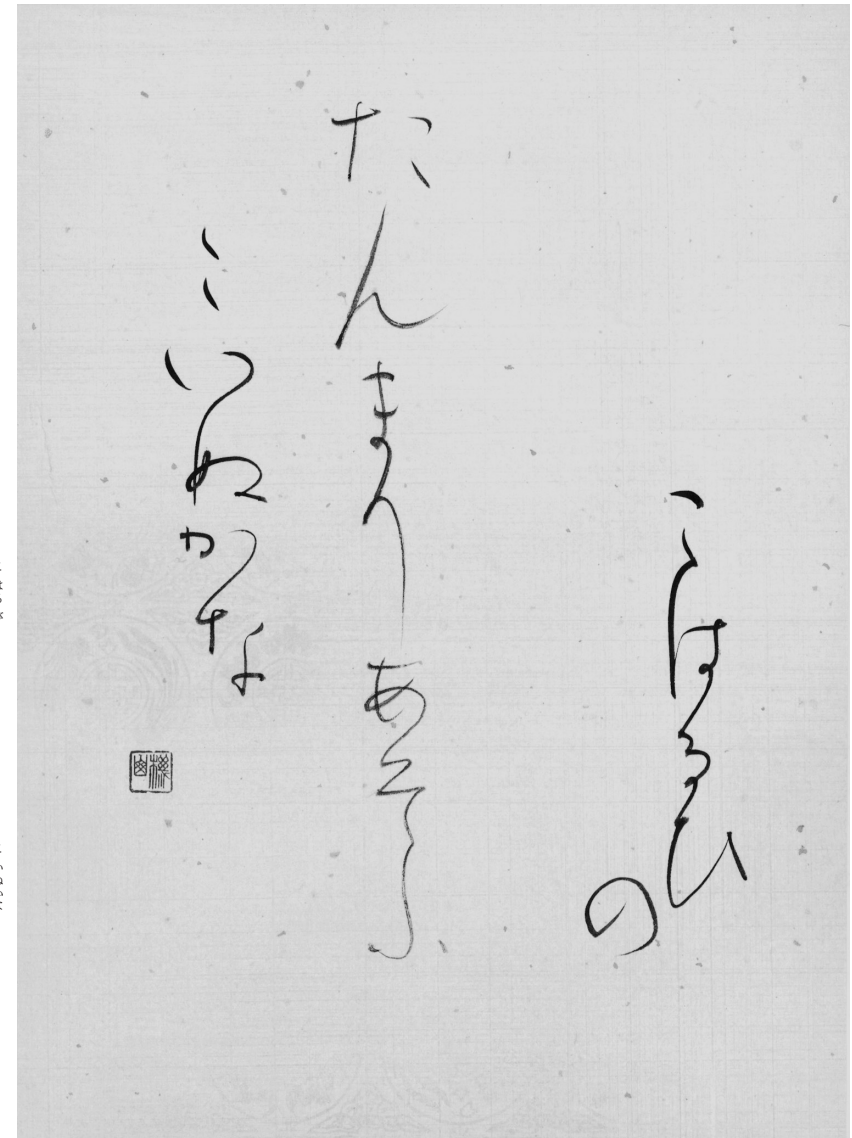
六
戎
玄
珪
乗
石

一般部毛筆かな課題

締切り 10月25日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書



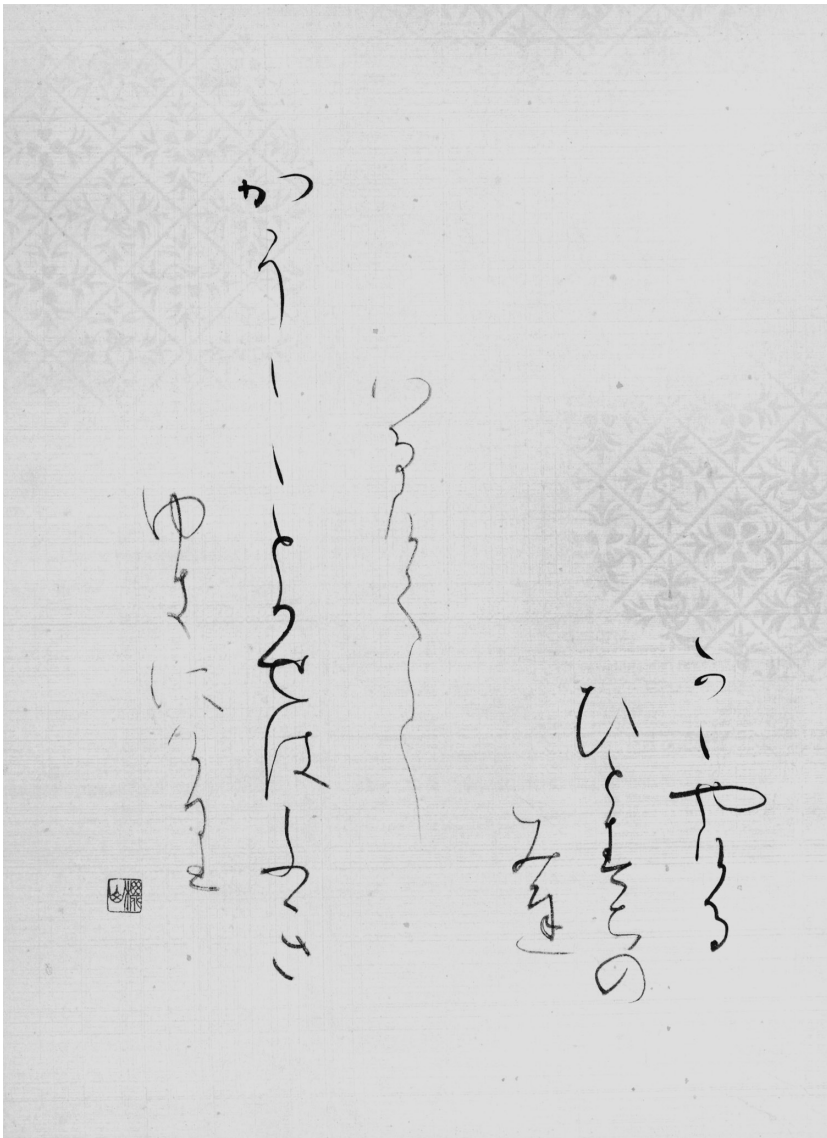
〔出典〕小沢碧童

〔句意〕ころころとじゃれまわる子犬の姿に、初冬のおだやかで、あたたかな日がとらえられた句。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

小春日のたんまりあそぶ子犬哉



〔出典〕斎藤茂吉

〔歌意〕わたしの前に、日に輝く一本の道が遙かに遠くつづいている。そして輝く風が激しくひびきながら吹き過ぎてゆくのだ。

かがやけるひとすぢの道遙けくて
かうかうと風は吹きゆきにけり

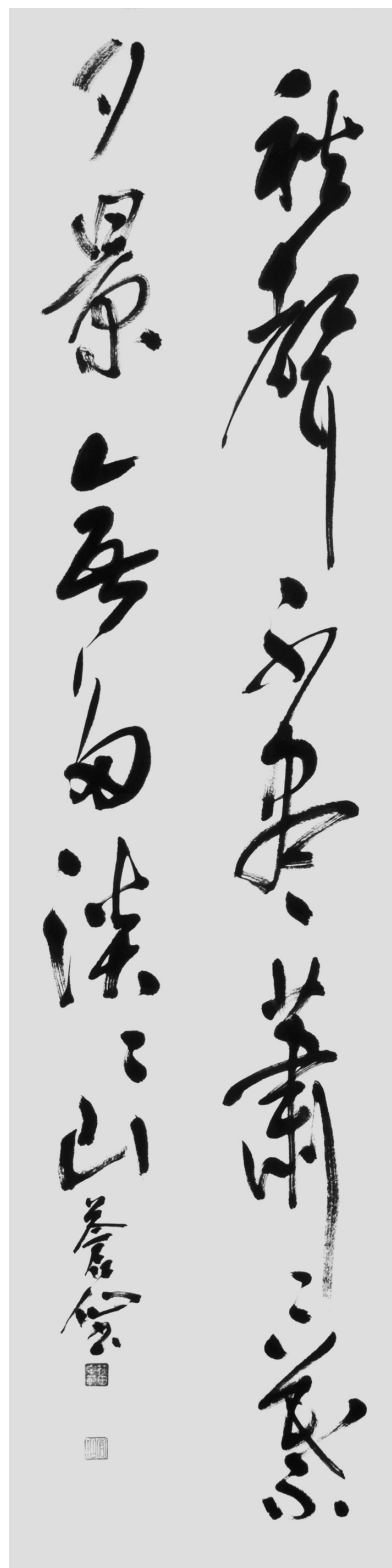
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 十月二十五日（必着）

半切（一三六cm×三五cm）

荻田蒼仙書



秋聲不尽蕭々葉
夕景無多淡々山

楊基

〔大意〕秋の声は、ばらばらと降りそそぐ葉の絶えぬの知られる。夕暮れには、あたり小暗く山はほんのりと見える。

初出品の方へ

支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔解説〕作品の優劣は線が大きく左右します。単純な浅い線、練れた雅味のある線……。多様な起筆の方法と筆圧のかけ方を知るべきです。講習会等でしっかり見て学んで下さい。

ようやく本棚の片付けを始めたなら
学生時代の写真が山ほど出て来て
計画は即中断、あ際写真整理を
兼ねて皆で一杯はどうだろう

（自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新人から師範まで、どなたでも出書できます。

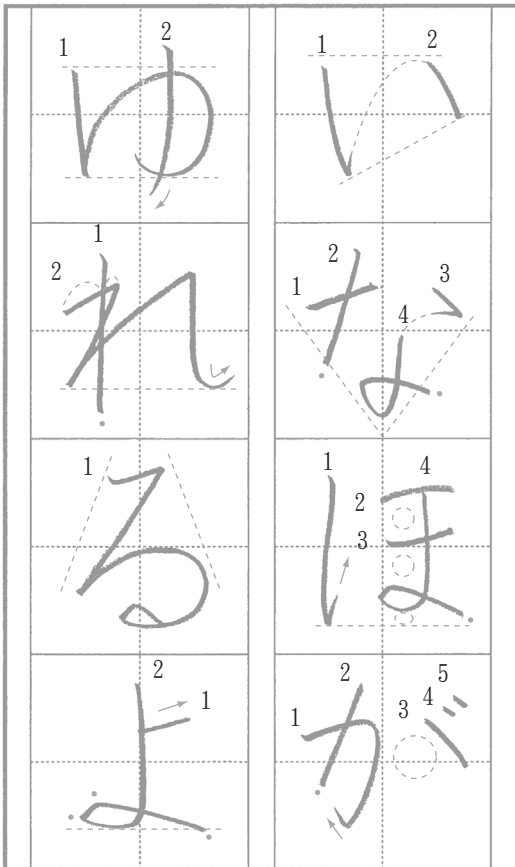
■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

半紙（334mm×240mm）

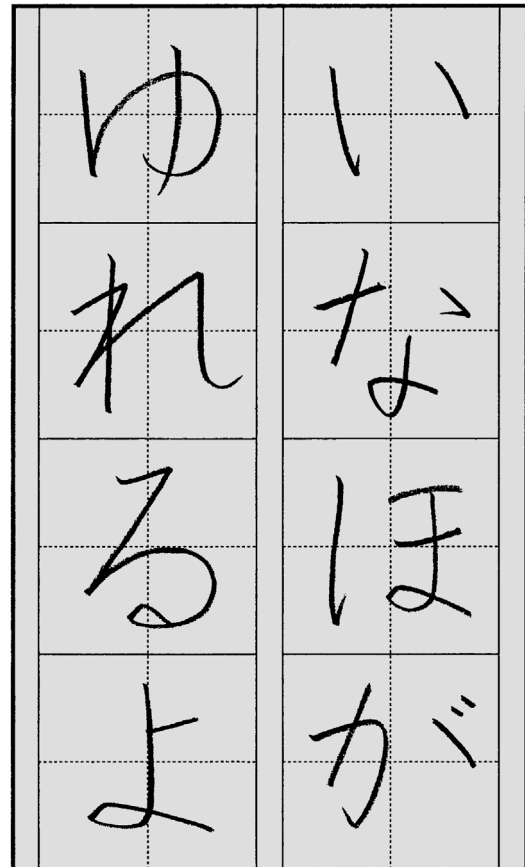
書 兆 春 宮 大

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



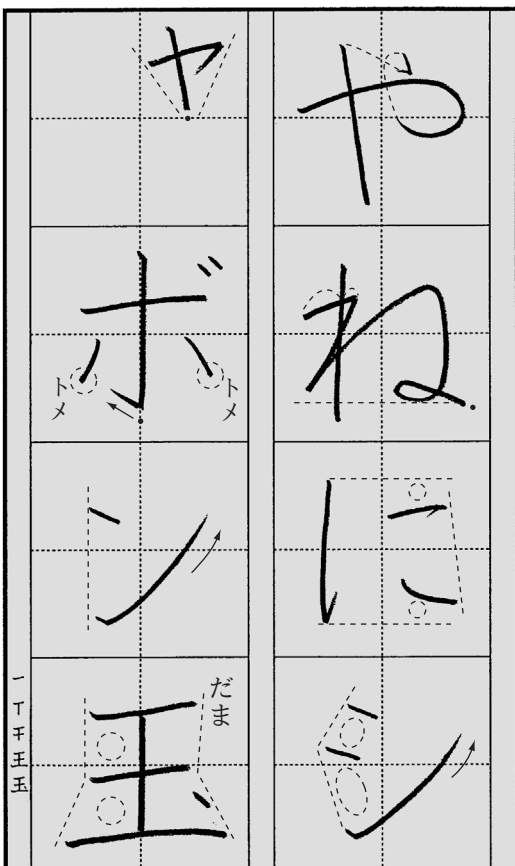
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



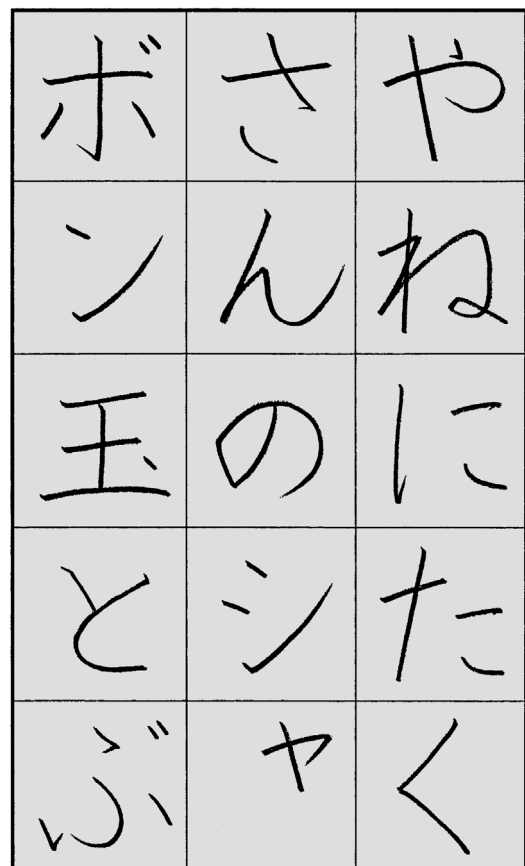
よ
う
年

幼年〜小三年
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

み	一十才木	木 モク
き	一十月目	目 め
で		の
船 ふね		つ

新入1級

船	き	木
を	で	目
作	大	の
る	き	つ
よ	な	み

準初段以上

小二年

準初段以上

く	ニ才才秒秋	秋 あき
り		の
拾 ひろ	一山	山 やま
い		で

新入1級

で	ひ	秋
く	び	鳥
り	く	の
拾	山	声
い	中	が

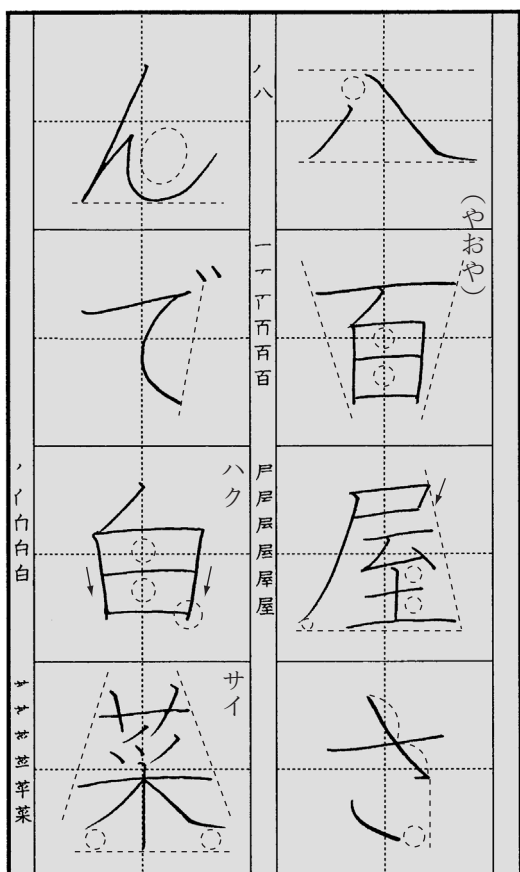
準初段以上

小三年

準初段以上

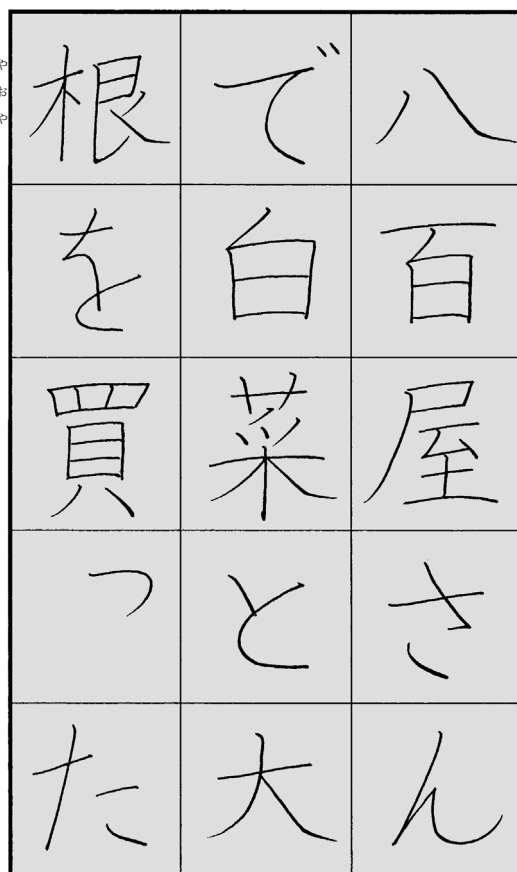
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)



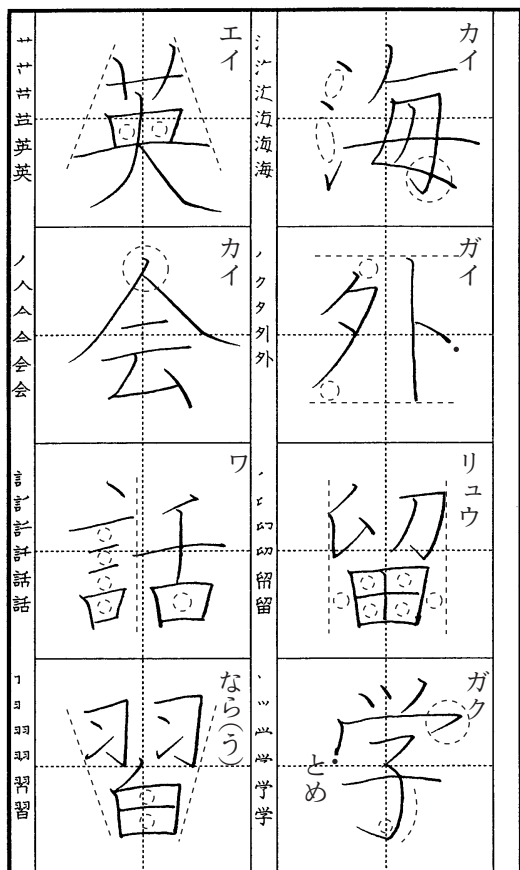
新入1級

※八百屋＝単語としてこのように読みます。



小四年

準初段以上



解説(よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小五年

(全員)

小六年

い	晩	気
雨	か	象
の	ら	庁
予	激	で
報	し	は

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

激	気
雨	象
予	庁
報	晩

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

中一年

回	を	ゴ
収	し	ミ
に	て	の
協	資	分
力	源	別

(行書)

中二・三年 (行書)

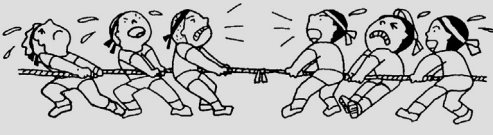
ず	養	温
撮	分	野
取	を	菜
す	逃	で
る	さ	栄

◎お手本は、つけペンで書きました。

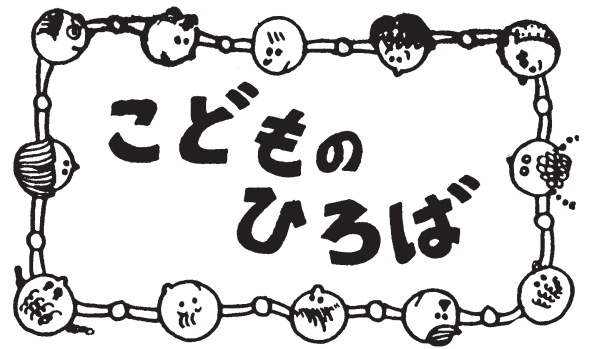
▼小三年以下の課題

伊 藤 由 光 書

大 ^{だい}	力 ^{ちから}	み	白 ^{しろ}	赤 ^{あか}
運 ^{うん}	を	ん	組 ^{ぐみ}	組 ^{ぐみ}
動 ^{どう}	合 ^あ	な	負 ^ま	が
会 ^{かい}	わ	で	け	ん
	せ		る	ば
	る		な	れ



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 10月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

小 木 曾 花 清 書

い	美 ^{うつく}	そ	紅 ^{こう}	お
た	し	っ	葉 ^{よう}	茶 ^{ちや}
だ	い	く	し	室 ^{しつ}
き	和 ^わ	り	た	で
ま	菓 ^が	の	も	
し	子 ^し		み	
た	を		じ	



◎お手本はつけペン使用

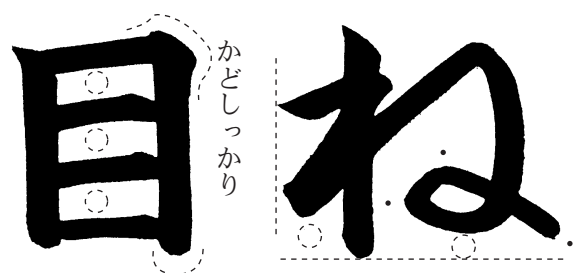
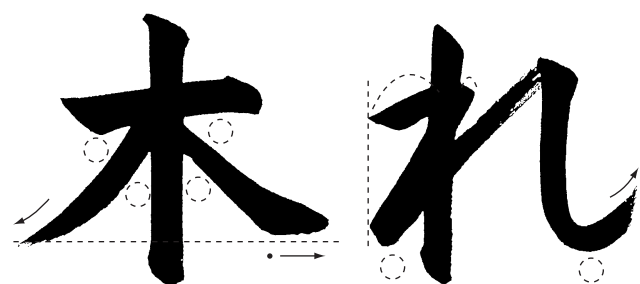
◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年／小二年
玉樹小
華書



英話

小五

会

秋山

小三

の

中心
屋

秋

中心
英

山

話

百

屋八

小四

百

小三、小五年

水野の香竹書

中二三
榮 養
攝 取

小六
予 氣
報 象

小六・中二・三年

奥村暢之書

源

養

攝

象

報

資

放射状に

・行書は、氣脈を大切にしよう

中一
回 資
収 源